

第2回東京イミグレーション・フォーラム
齋藤法務大臣開会挨拶（和文案）

皆様、法務大臣の齋藤健です。

本日、「第2回東京イミグレーション・フォーラム」に参加いただいている全ての皆様に、心より歓迎いたします。

今回ようやく、今ここ東京において、多くの国・地域における入管当局のトップの皆様にお集まりいただき、直接お会いできたことを、大変嬉しく思います。

昨今、国境を越える人の移動が爆発的に増加し、各国の入管当局は、適切な国境管理、国内での共生社会の確立にあたり、共通の課題に直面しているといえます。このような課題に的確に対応していただくためには、各国が個別に対応するのではなく、連携し、協力して対応することが不可欠です。こうした問題意識の下、各国間でベストプラクティスや直面する課題に係る情報を交換し、協力関係を構築する場として、本フォーラムは立ち上げられました。

本フォーラムにおける議論を通じ、各国入管当局間の連携や協力が深まることは、日本だけでなく国際社会に対しても大きな貢献になると考えています。

具体的には、ポストコロナを見据えた、今後一層回復していく人の往来など様々な課題に対する取り組みが入管当局の喫緊の課題と考えます。

また、近年、世界各国で「社会の分断」が問題となっています。このような世界情勢の中で、お互いを尊重し、安全・安心に暮らせる共生社会を実現するためには、ルールにのっとって外国人を受け入れ、適切な支援を行うとともに、ルールに違反する者に対しては、法を確実に、かつ、適切に適用して対処することが重要です。

新型コロナウイルスに始まりテロリズムに至るまで様々な脅威の拡散を水際で未然に防ぎつつ、自国民と外国人がお互いを認め合い、尊重し合いながら生きていく共生社会を実現するために、「自由」、「民主主義」、「人権」、「法の支配」といった普遍的価値に基づき、各国・地域と引き続き連携していきたいと考えています。

第2回となる本フォーラムが、参加国・地域における共通の課題解決に向けた積極的な一歩を踏み出す機会となること、そして、より一層、調和のとれた共生社会とポストコロナの世界にふさわしい入管行政が実現することを期待しています。

最後に、この「東京イミグレーション・フォーラム」が、入管当局による国際的なプラットフォームとして大きな役割を果たしていくことを願いつつ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。